

令和5年度 羽島特別支援学校

学校評価について

令和5年度小学部



■ A よくあてはまる ■ B ややあてはまる ■ C あまりあてはまらない ■ D まったくあてはまらない ■ E わからない

令和5年度小学部



■ A よくあてはまる ■ B ややあてはまる ■ C あまりあてはまらない ■ D まったくあてはまらない ■ E わからない

小学部考察

① 高評価を得た内容

- ・『教育方針』『家庭との連携』『教職員』に関する項目は、おおむね良い評価を得ている。

- ・特に、4「先生と児童生徒が信頼し合って活動している」9「保護者への連絡や意思疎通を積極的に行っている」12「懇談が十分に実施されている」16「児童生徒に愛情をもって接している」の項目で、95%以上の良い評価を得ている。

- ・普段から、児童生徒や保護者に丁寧に接したり、説明したりしていることが、結果に結びついたと考えられる。

② 課題とすべき内容

- ・32「ICT教育の推進」の項目について、約12%の保護者が「あてはまらない」と答えている。子どもたちの実態に即した、パソコンやタブレット端末の効果的な活用の工夫を行い、またその活用方法を保護者に伝えていく必要があると考えられる。

- ・37「外部専門家との連携」の項目については、昨年度よりは若干評価が上がっているが、「あてはまらない」との回答が約10%ある。児童生徒へのより良い支援につながる教師の専門的知識の向上が望まれる。

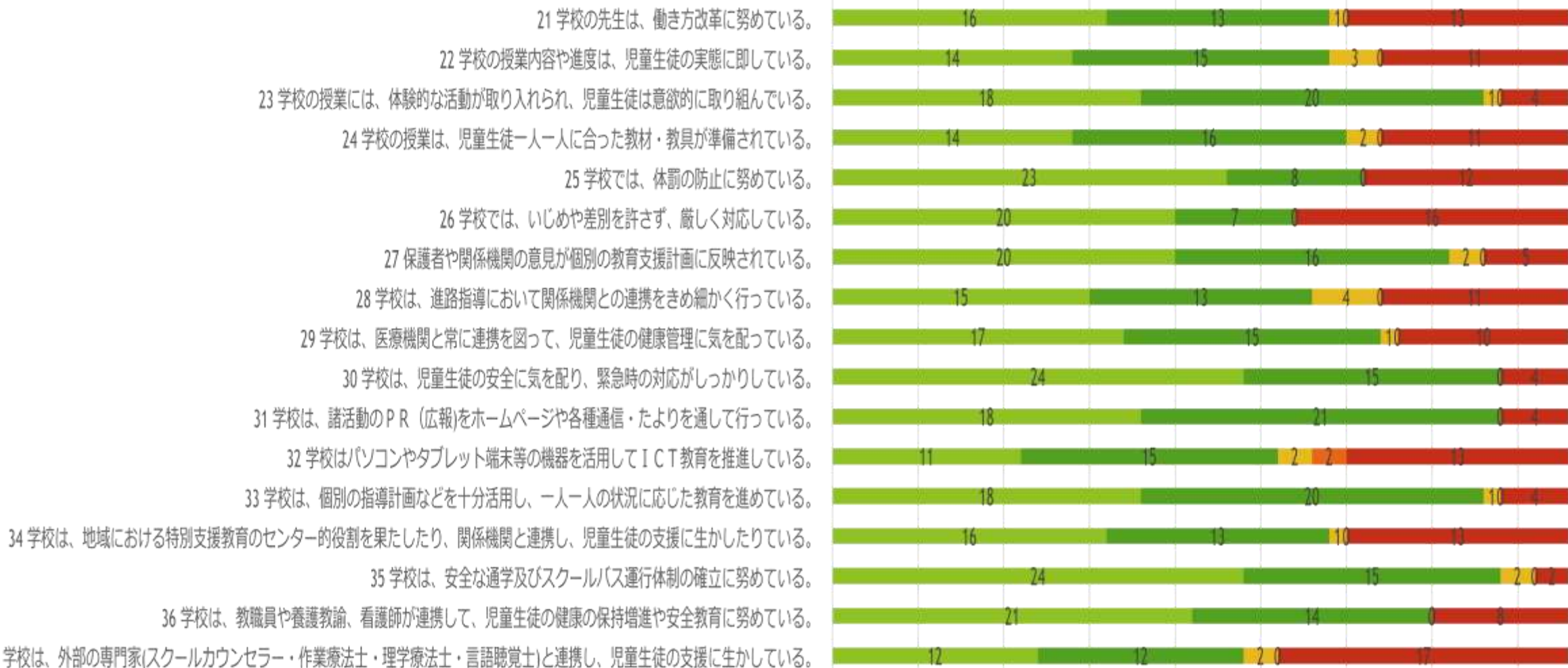
- ・26「体罰やいじめ・差別」28「進路指導における関係機関との連携」の項目については、「あてはまらない」とする保護者はいなかったが、「わからない」とする回答が約40%と多かった。授業参観等で実際の様子を見ていただく機会の確保や、学年通信やホームページ等での情報の発信等、理解してもらうための方法の検討が必要である。

令和5年度中学部



■ A よくあてはまる ■ B ややあてはまる ■ C あまりあてはまらない ■ D まったくあてはまらない ■ E わからない

令和5年度中学部



■ A よくあてはまる ■ B ややあてはまる ■ C あまりあてはまらない ■ D まったくあてはまらない ■ E わからない

中学部考察

①高評価を得た内容

- ・「教育方針」や「家庭との連携」に関する項目は、おおむね90%以上のよい評価を得ている。
- ・特に、5「保護者が先生にいろいろなことを相談しやすい雰囲気」6「交流を大切にし、生徒の経験を広めている」9「生徒の様子などについて、保護者への連絡や意思疎通を積極的に行っている」11「進路に関する連絡や情報提供」31「ホームページや各種通信・たよりを通じた諸活動のPR（広報）」の項目は、前年度と比べて高い評価を得ている。
- ・日頃から連絡帳や電話等による保護者との連携を大切にし、生徒の様子や支援に関して情報共有を行ってきたことが結果に反映したと考えられる。
- ・「進路に関する連絡や情報提供」については、前年度の72%から90.7%となり、かなり高評価を得ている。保護者懇談時の進路情報の提供や説明の場を設けたこと、PTA主催の事業所見学が行われたことなどが高評価に結び付いたと考えられる。

②課題とすべき内容

- ・「授業」に関わる項目の評価が前年度に比べて低くなった。生徒の実態把握を職員間で丁寧に行い、実態把握に基づいた授業や個々に応じた教材・教具の工夫を行っていく。また、授業内容や生徒の学びについて保護者懇談や連絡帳等で具体的に伝えていく。
- ・「教職員」に関わる項目は、80%以上の評価を得ているが、前年度に比べると若干評価が下がっている。18「専門的知識が豊かで教師としての資質を身に付けている」19「社会常識を身に付けており、人間としても信頼」20「生徒の実態を的確に捉えている」の項目が4～5ポイント程度下がっている。OJTや各種研修受講、学校研究等を通じた個々の教員の資質向上を図ったり、親しみがもてるよう笑顔で接することを心がけたりしていく。
- ・今回の結果は、生徒の実態を的確に捉え、実態に基づいた授業を展開していくことに対して課題を示唆するものと捉え、生徒がどのような学びを必要としているか、教員間の対話を通して明らかにしながら授業づくりを行っていく。

令和5年度高等部



■ A よくあてはまる ■ B ややあてはまる ■ C あまりあてはまらない ■ D まったくあてはまらない ■ E わからない

令和5年度高等部



■ A よくあてはまる ■ B ややあてはまる ■ C あまりあてはまらない ■ D まったくあてはまらない ■ E わからない

高等部考察

① 高評価を得た内容

・ 1「学校教育目標や指導方針の内容に共感できる」 9「生徒の様子等について、保護者への連絡や意思疎通」や10「授業や学校行事等を参観する機会を設ける」の積極的教育活動の公開、12「生徒や保護者との懇談が十分に行われている」 30「緊急時の対応」 31「諸活動をホームページや各通信・たよりでのPR」が90%以上の高評価を得ている。

・ 生徒の学習活動を直接参観できる機会が増えたことで生徒の取組や教員との会話等から、理解が得られてきている。また、通信やたより、すぐメールでの情報発信についても、保護者にとって分かりやすく伝わったと考える。

② 課題とすべき内容

・ 26「いじめや差別への対応」 29「医療機関との連携」 32「ICT教育の推進」 34「地域におけるセンター的役割」 37「外部専門家との連携」については、約2割の保護者が「分からない」と答えている。行事等の発信は多いものの、これらの情報発信については不十分であるのではないかと考える。

・ 2「生徒一人一人の良さや可能性を伸ばす工夫」 7「教育方針や指導内容を保護者（地域）へ伝える」 20「先生は生徒の実態を的確に捉えている」については、80%～90%の高評価である一方、約1割の保護者が「あまりあてはまらない、まったくあてはまらない」の評価である。このような評価については貴重な意見として、より教員の専門性向上に努めていきたい。

全体考察（外部評価も含めて）

- ・ 全体的に高評価を得ている。
- ・ 児童生徒の実態把握や外部専門家との連携・授業改善、ICT活用については、積極的な専門支援の活用や職員研修、教職員間の対話等を通して工夫改善を行い、丁寧な授業づくりや一人一人のニーズへのきめ細かな対応が行えるよう、職員の資質や専門性を高めていく。
- ・ 外部機関との連携、進路、ICT、いじめ防止等、各分野において、今後も情報発信を継続的に行っていくとともに、コロナ禍で閉ざされていた教育活動を学校行事や参観、懇談等で積極的に公開していく。